



菖蒲湯に入ろう

～奈良時代から続く歴史を思って～

5月26日のあしや温泉の日に菖蒲を湯に浮かべます。

あしや温泉の菖蒲の湯で無病息災を祈りましょう!!

菖蒲湯に使う「菖蒲」とはサトイモ科の植物で、沼や川などの水辺に群生しています。菖蒲の名前から、紫色や白く美しい花を咲かす「花菖蒲」や「アヤメ」などとよく混同されますが、異なる植物です。強い香気があり、この香りの強さが不浄を払い、邪気を遠ざけてくれるといわれています。

5月5日のこどもの日は「端午の節句」といい、奈良時代から続く行事だといわれています。元は厄払いが目的で、邪気や悪鬼を祓う薬草とされていた菖蒲を軒にさしたり、湯に入れたりして無病息災を祈りました。やがて武家社会になると、「菖蒲」は、「勝負」や「尚武」に通じることや、形が刀を思わせることから、武を尊ぶ節句へと変化していきました。